

神戸・六甲山の展望台「六甲枝垂れ」内の「風室」で13日、冬場に雨水が凍つてできた氷で涼む冷風体験が始まった。氷を保存する「氷室」の扉が開放され、冷気が通気口を通して風室に流れ込んだ。室温は常時20度に保たれ、カップルらが自然の力で生まれた涼を楽しんだ。

展望台周辺は、冬場の気温が氷点下になる日が多く、屋外で雨水

「氷室」開放し 夏をひんやり

自然の力 涼楽しむ

をためると厚さ5センチ超の氷ができる。毎年1~2月に切り出し、地下の氷室で保存。ヒノキ造りの氷室では、夏場まで氷が溶けないという。

**神戸・六甲山
「六甲枝垂れ」**



公開された氷室。冬場の六甲山で雨水を凍らせてでき
た氷を保存している=神戸市灘区六甲山町五介山

のが不思議。ヒノキの香りも相まって、癒やされます」と気に入った様子だった。

風室は氷が溶けるまで利用でき、8月いっぱいの見込み。氷室の公開は今月20、27日と小学生対象の8月24日。要申し込み。展望台の入場料(大人300円、4歳以下小学生200円)で参加可能。六甲ガーデンテラス

81 078・894・2222 (初鹿野俊)